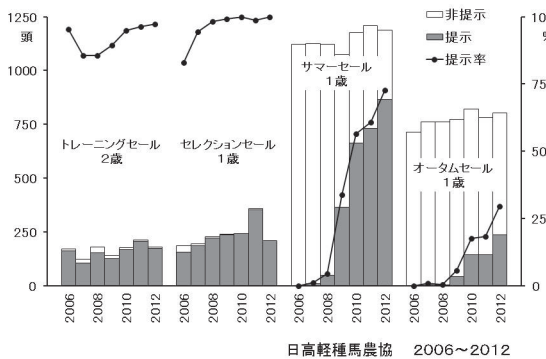


## 市場における獣医療検査情報の公開 — 日本の市場レポジトリー —

国内の市場で、「レポジトリー」が開設されるようになった当初は、米国等のような販売者側、購買者側の自然な流れから始まった制度ではなく、理解を得られていないままのスタートといった面もありましたが、その後、市場制度の改訂などもあり、提出される件数は年々増え、「レポジトリー」はどの市場でも定着するようになってきました。(図-1)

図-1 北海道市場レポジトリーにおけるレントゲン画像の提示状況



では実際に、「レポジトリー」ではどのようなことが行われているのでしょうか。市場によっては規制があり、情報の閲覧に来るのは、ほとんどが獣医師です。そして「レポジトリー」の部屋は、常に閲覧者が出入りして、「せり」の開始直前には大変混み合っています。最近では、提示資料はすべてデジタル化し、コンピューターサーバに保存され、インターネットを活用して、「レポジトリー」の部屋にまで行かなくても、事前に登録している獣医師はパソコンで閲覧する事ができます。市場関係者は、サーバのアクセス履歴を確認すれば、誰がどの馬の画像、動画を見たかを知ることができます。(図-2)

図-2 レポジトリーでのレントゲン画像閲覧状況

	トレーニング 2歳	セレクション 1歳	サマー 1歳	オータム 1歳	合計
上場頭数	181	211	1190	804	2386頭
提示頭数	176	211	866	237	1490頭
閲覧延回数	1242	1462	3796	1081	7581回
閲覧者数	50	77	125	72	324人
一頭あたりの平均閲覧回数 閲覧延回数/提示頭数	7.1	6.9	4.4	4.6	5.1 回/頭
一人あたりの平均閲覧頭数 提示頭数/閲覧者数	3.5	2.7	6.9	3.3	4.6 頭/人

サーバのアクセス履歴によると、レポジトリー情報を提示している馬は、平均5回くらいは閲覧されている事になります。注目されている馬につ

いては、数十回ものアクセスがあるそうです。一人の獣医師は平均5頭程度の閲覧をしていることとなります。ほとんどの馬の情報を見ている獣医師もいましたが、通常は購買者がある程度の頭数に絞ってから獣医師に依頼しているものと思われれます。

購買者は「せり」の際、獣医師を通じて得られる情報やアドバイスから、安心してより積極的になる人もいますし、マイナスの情報があれば、躊躇する人もいます。

でも獣医師といえども、「レポジトリー」情報の解釈については専門家ですが、その馬の競走馬としての将来については分かりません。そもそも、獣医学的になんら問題が無かった馬でさえもデビューもできない馬もいるし、問題とされていた馬でも、十分な活躍をしている馬もいます。

過去の1歳市場に提出された約1,000頭の四肢のレントゲン画像で、骨片や、骨反応像(吸収、増成など)、骨の変形等、約40項目について調査した結果、指摘所見が、全く見られなかったのは、わずかに123頭でした。そしてこれらの馬の競走成績を調べたところ、他の馬に比べて、優れているという結論は得られませんでした。(図-3、図-4)

図-3 指摘所見の有無による競走馬としての将来

北海道市場 1歳サラブレッド 2006~2009

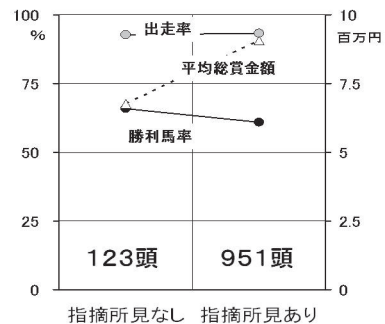
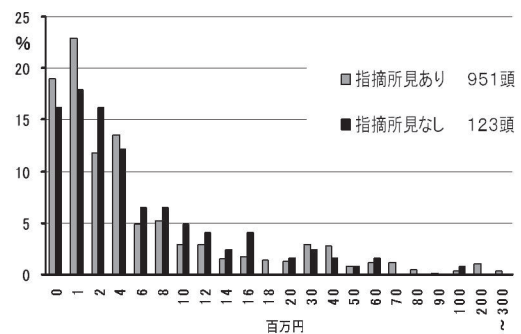


図-4 指摘所見の有無による総賞金の違い

北海道市場 1歳サラブレッド 2006~2009



現在、一つ一つの所見ごとに、競走成績との関係を照らし合わせ、さらには未出走、未勝利の馬、事故、故障等で登録を抹消された馬の経緯と、指摘した所見との関連を調べています。